

14-D

オオシマザクラ(大島桜)の巨木

バラ科サクラ属 *Prunus lannesiana* var. *speciosa*

※伊豆諸島に自生する他、房総半島や伊豆半島で古くから栽培され、野生化もしている。ソメイヨシノは本種とエドヒガンの交配種である。巨木は稀であるが、近年、御蔵島等で巨木が確認されている。そのほとんどが分岐幹か根上り状で、M式測定法での単幹巨木は見られない中、「大島の桜株」は別格であり、凄みのある樹形から日本一とした。巨木位置図は「ヤマザクラの巨木位置図」に記載。

■主なオオシマザクラの巨木

評価 A 国指定天然記念物級 B 都府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

2015年現在

	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	大島の桜株 写真 OO-001	M5.5m(分岐 0.3m 2013)	15m	東京都大島町泉津福重	国
B	神着の大ザクラ 写真 OO-002	株周 4.52m	8m	東京都三宅島村神着	都
C	長狭の観音桜	6.81m(4分岐合計)	15m	千葉県野田市成川入山	なし



写真 OO-001

日本一のオオシマザクラ

おおしま さくらかぶ
大島の桜株

大島公園の上部、遊歩道を登った緩やかな斜面に這うように立つ、大島で最古の桜といわれている。朽ちかけた主幹は1.3mでひこばえを含む多数に分岐、その内太い幹が二本水平に伸び、大蛇のように這う姿が印象的。

写真 OO-002▶

かみつき おお
神着の大ザクラ

主幹は不定根の集合体で、支柱によってかろうじて支えられている。三宅島や御蔵島の多くのオオシマザクラの典型的樹形である。(写真・Web画像)



14-E カスミザクラ(霞桜)の巨木

バラ科サクラ属 Prunus leveilleana

※ヤマザクラに似ているが、同じ所では花期が遅い。識別点は葉柄、小花柄に開出毛があること。巨木の報告例は少なく、その中でも「葛岡のカスミザクラ」は、主幹が破損しているが見事で、日本一のカスミザクラとした。巨木位置図は「ヤマザクラの巨木位置図」に記載。

■カスミザクラの巨木評価基準は、ヤマザクラの巨木評価基準に準ずる。

■主なカスミザクラの巨木

2015年現在

	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	葛岡のカスミザクラ 写真 K-001	5.08m	15m	秋田県由利本庄市葛岡字落合 43	県
伐採	荒木のカスミザクラ 写真 K-002	M4.35m(1.3m 2008)	26m	石川県加賀市荒木町 白山神社	なし
C	百舌原のカスミザクラ	3.7m	25m	長野県長野市広瀬百舌原十二社	市
C	白倉のカスミザクラ	3.6m	15m	新潟県十日町市小白倉	市
C	長勝寺のカスミザクラ	3.02m(4m で破損)	7m	青森県弘前市一丁目	市
C	大沢のカスミザクラ 写真 K-003	2.95m	12m	秋田県平鹿郡雄物川町大沢字坂の下	町



写真 K-001

日本一のカスミザクラ 葛岡のカスミザクラ

山間の一軒宿、かすみ温泉の敷地内にある。かつて樹高18mの大木であったが、台風によって主幹が折れ、それでも一部が繋がって生き長らえている奇跡の桜。
(写真・Web画像)



▲写真 K-002

伐採

荒木のカスミザクラ

白山神社本殿右手前の石垣の際に立つ。1960年頃の目撃談によれば、両手で抱えられる程の幹であったという。50年程で巨木に成長したようだ。しかし、2015年、台風により大枝が折れ、危険のため伐採された。

写真 K-003

大沢のカスミザクラ

山道を分け入った杉林の中に立つ一本桜で、まるで桃源郷に咲くように神秘的である。

(写真・Web画像)

14-F-1 ソメイヨシノ (染井吉野)の巨木

バラ科サクラ属 Prunus×yedoensis cv.Yedoensis

※オオシマザクラ系のサトザクラで、オオシマザクラとエドヒガンの交配種。現在では桜といえば本種をさす程になり、全国に個体数が極めて多い。一般に普及したのは日露戦争の戦勝記念として全国に植えられた事が起因しているという。しかし、全てがクローンであるため、寿命が普通60年といわれる。稀に生き長らえ、樹齢100年を越えるものが存在する。しかし、命名されている巨木は少ない。

■主なソメイヨシノの巨木

2015年現在

	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	日本一のソメイヨシノ 写真 S-001	5.3m(1.3m)	10m	青森県弘前市下白銀町 弘前公園	なし
B	白石川堤のソメイヨシノ 写真 S-002	4.85m(1.3m)	13.7m	宮城県白石市字中河原	なし
B	本丸址のソメイヨシノ 写真 S-003	株周 M5.2m(0.2m)	13m	石川県金沢市金沢城跡本丸	なし
B	真鍋の桜 写真 S-004	5.1m	15m	茨城県土浦市真鍋小学校	なし
C	新宿御苑のソメイヨシノ 写真 S-005	4.49m	8m	東京都新宿区内藤町新宿御苑	なし
B	日本最古のソメイヨシノ 写真 S-006	4.0m	10m	青森県弘前市下白銀町 弘前公園	なし



▲写真 S-002 日本一タイのソメイヨシノ

しらしがわてい
白石川堤のソメイヨシノ

白石川の堤防にあるソメイヨシノの桜並木の内、最大株で、地元では日本一のソメイヨシノとしている。測定部の1.3m地点は、分岐で膨らんだ部分で、M式では少し小さい可能性があるが、日本一タイとする。(写真・Web画像)

◀写真 S-001

日本一のソメイヨシノ

単幹で日本一のソメイヨシノは、青森県の弘前公園にある緑の相談所の中庭に立っている。植えられた時期は明確ではないが、少なくとも、明治34年には植えられていたというから、樹齢110年以上である。

地上1.3mは、分岐部のすぐ下辺り。樹形が膨らむ部分で、幹周値が少し大きくなる。M式では少し小さな値が出そうだが、歴史やロケーションを考慮、「日本一」の名称も定着しているようなので日本一とした。「白石川堤のソメイヨシノ」も同格であると判断される。



写真 S-003

ほんまるあと
本丸址のソメイヨシノ

広大な金沢城址の最も高い所にある本丸址の一角にある。日露戦争の戦勝記念として植えられたもので、根元で3分岐する。現在もわずかであるが花を付ける。



写真 S-005

しんじゅくぎょえん
新宿御苑のソメイヨシノ

広大な庭園内にはソメイヨシノが多く、明治後期に植えられた樹齢100年程の桜が何本か残っている。その内の最大株。



写真 S-004

まなべ さくら
真鍋の桜

1907年に真鍋小学校が現在の地に移転した折、記念に植えられた桜で、当時の桜が5本残っている。その内の最大株。地上1.3m部分が広がる樹形で、幹周報告値が少し大きく出たようだ。

(写真・Web画像)



写真 S-006

にほんさいこ
日本最古のソメイヨシノ

弘前公園の中央あたり、元与力番所横に立つ。主幹は斜上し、根元と主幹から新しい幹が立上がり、枝葉はかなり茂っている。1882年(明治15年)に旧藩士の菊池楯衛が千本を寄贈し植樹されたと伝えられるもので、その内の一本が生き残り、樹齢128年で日本最古のソメイヨシノとされる。

14-F-2 サトザクラ(里桜)の巨木

※平安時代頃から桜を庭に植える文化が始まり、同時に人為的に交配する等して園芸種を作ってきた。これまでに 200 種以上の品種があり、これらを総称してサトザクラと呼んでいる。オオシマザクラ系の品種が多く、代表格がソメイヨシノである。しかし、現在では桜と言えはソメイヨシノをさす程に個体数が多く、巨木分類ではソメイヨシノを別分類した。

サトザクラは寿命が短く、巨木に成長するものは稀で、「善正寺菊桜」は希有な存在で、「国指定特別天然記念物」相応の菊桜である。

■主なサトザクラの巨木

2015 年現在

	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
AA	ゼンショウジキクザクラ 写真 ST-001	M3.1m(1.3m 2009)	12m	石川県羽咋郡宝達志水町所司原	県指定
A	ケンロクエンキクザクラ 写真 ST-002	株周 1.2m(0.2m)	4.5m	石川県金沢市兼六町 1 兼六園	なし
B	ヒウチダニキクザクラ 写真 ST-003	M2.1m(1.3m 2009)	7m	石川県羽咋郡志賀町火打谷 石川県緑化センター	県指定
B	ライコウジキクザクラ 写真 ST-004	株周約 1m(根元 5 分岐)	8m	石川県鳳珠郡穴水町大町 来迎寺	県指定
B	血脈桜 写真 ST-005	5.5m(2 分岐合計)	8m	北海道松前郡松前町松城 光善寺	道指定
B	称願寺のサクラ 写真 ST-006	株周約 4m(根元 3 分岐)	8m	山梨県笛吹市御坂町上黒駒	県指定
B	長勝院旗桜 写真 ST-007	3m	11m	埼玉県志木市柏町 3 丁目 長勝院跡	市指定
B	白野江のサトザクラ 写真 ST-008	6.68m(分岐幹合計)	5m	福岡県北九州市門司区白野江 白野江植物公園	県指定



写真 ST-001

日本一のサトザクラ

善正寺菊桜

石川県の能登半島は全国でも稀な菊咲き品種の桜が多い所である。本誓寺のアギシコギクザクラ、来迎寺のライコウジキクザクラ、火打谷のヒウチダニキクザクラ、気多大社のケタノシロキクザクラ、そして、この善正寺のゼンショウジキクザクラである。金沢の兼六園には有名なケンロクエンキクザクラがある。どれも品種名になっている。これらの品種について詳しく研究した金沢大学の木村久吉によれば、能登の菊桜はお互いに関連がある一連の品種群であり、ノトノキクザクラとしてまとめることができるとした。

菊桜の寿命は短いようで、ある程度大きくなると枯れる。現在のアギシコギクザクラ、ケタノシロキクザクラ、ケンロクエンキクザクラは二代目である。そんな中で、ゼンショウジキクザクラは珍しい菊桜の巨木として残っている貴重な存在である。

本堂前、境内中央に立つ。幹周 3.1m、樹高 12m。花卉は 130~250 枚。地上 2m で 4 分岐し、幹は捩じれるように波打ち、古木の風格がある。根元からひこばえ一本が立上がる。先端の幹に破損が見られるものの、樹勢は旺盛だ。最初最下部の枝の花から開き始め、次第に上部の枝の花が咲き始める。中心に紅色が残り、開くにしたがって淡紅色から白色になる。八部咲き頃が最も美しく見えるようだ。

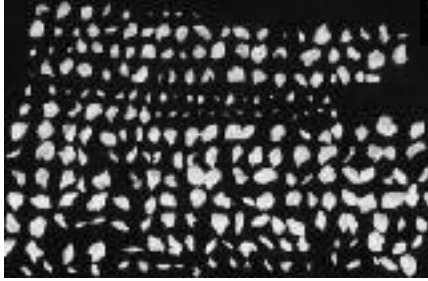




▲写真 ST-002

ケンロクエンキクザクラ(兼六園菊桜)

▼花びらは252枚数えた。



現在の桜は二代目で二本あり、初代の原木は京都御所において、孝明天皇(1831～1866)から加賀藩に賜ったと伝えられ「御所桜」と呼ばれていた。これは、昭和45年(1970)に枯死し、樹齢は250年程だったと伝えられ、かなりの巨木であった。二代目は、枯れる寸前に継木したものの。



▲写真 ST-003

ヒウチダニキクザクラ(火打谷菊桜)

緑化センターに入って1き程、左手に立つ。花茎は約4拵で、花弁数は約120～210枚。主幹は1.5mで3分岐し、根元からひこばえが5本斜上。やや衰弱が見られる。



◀写真 ST-004

ライコウジキクザクラ
(来迎寺菊桜)

来迎寺の前庭に立つ。根元で5分岐して立上がる。

▼写真 ST-006

しょうがんじ
称願寺のサクラ

根元近くで3分岐する樹形。
(写真・Web画像)



◀写真 ST-005

けちみやくざくら
血脈桜

松前町は桜の名所である。その中でも光善寺境内にある血脈桜は実に妖艶な桜である。品種は「マツマエハヤザギ」だ。「血脈」とは極楽に行くための証文で、桜の精の物語が伝わっている。
(写真・Web画像)



▼写真 ST-008

しらのおえ
白野江のサトザクラ

「母子桜」とも呼ばれ、樹齢400年といわれている。根も度近くで数本に分岐する分岐幹。白野江植物公園入口にある。
(写真・Web画像)



写真 ST-007

ちょうしょういんはたぎくら
長勝院旗桜

旗桜とは、雄しべが旗弁を成すもので、珍しい桜。一重で比較的大輪の花である。長勝院跡に立つ。(写真・Web画像)



14-G

イヌザクラ(犬桜)の巨木

バラ科サクラ属 Prunus buregeriana

イヌザクラ・ウメの巨木位置図

●イヌザクラの巨木

★ウメの巨木



■イヌザクラの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 9m 以上の単幹樹、同等評価のイヌザクラの巨木。
- B 幹周おおむね 5~9m の単幹樹、同等評価のイヌザクラの巨木。
- C B 評価以下のイヌザクラの巨木。

■主なイヌザクラの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	静の桜 写真 I-001	M9.03m(1.3m 2012)	10m	長野県大町市美麻大塩薬師堂	県
B	中居林のイヌザクラ 写真 I-002	M5.31m(1.3m 2012)	16m	青森県八戸市中居林	なし
B	峰たたえのイヌザクラ 写真 I-003	株周 M6.7m(0.5m 2012)	29m	長野県茅野市宮川 1066	市
C	赤沼田のサクラ 写真 I-004	4.6m	28m	岐阜県下呂市小坂町赤沼田	県
C	さおりヶ原のイヌザクラ 写真 I-005	株周 5.17m(根元 4 分岐)	30m	高知県香美市物部町 三峯中腹	なし
C	駒形堰のイヌザクラ 写真 I-006	株周 4.75m(根元 5 分岐)	不明	福島県喜多方市塩川町	なし
C	西ヶ嶽のイヌザクラ 写真 I-007	4.35m	20m	兵庫県篠山市藤岡奥 西ヶ嶽沢筋	なし
C	轡の森のイヌザクラ 写真 I-008	M4.04m(分岐 0.3m 2013)	8m	滋賀県長浜市木之本町木之本	なし



写真 I-001
日本一のイヌザクラ
静しずかの桜さくら

日本一のイヌザクラは「静の桜」という美しい名前の巨木である。別名「大塩のイヌザクラ」とも言う。樹勢回復のため、2011年頃まで主幹に保護シートが巻かれていた。2012年に保護シートがほとんど排除され、壮絶な年月を物語る主幹が現れた。樹齢1000年に思わず納得する。

静の公園入口に立つ巨木で、よく整備されている。地元では、平清盛の愛妾であった静御前がこの地を通った時に、ついていた杖をここに挿したのが根付いたとされ、名前の由来になっている。樹形に衰えが見られるものの、再生に成功し、イヌザクラでは稀に見る巨木である事、歴史から鑑みて、「国指定天然記念物」相応と考えられる。



写真 I-002
中居林なかいばやしのイヌザクラ

住宅街の一角にあり、地上2mで2分岐する堂々たる樹形。根元に小さな祠があり、地元の守り神として大切にされている。



写真 I-003
峰みねたたえのイヌザクラ

宮前公園裏手の林の中に立つ巨大なイヌザクラで、根元で大小2分岐する樹形だが、樹高29mもある壮大な樹形は、周囲を圧倒している。全国第二位としてもよいイヌザクラであったが、2015年頃台風で大きな枝が折れ、樹形に変化が出ている。



写真 I-004
あかぬまた
赤沼田のサクラ
(写真・石田徹)



写真 I-005
さおりヶ原のイヌザクラ
「森の巨木たち 100 選」に選ばれたイヌザクラである。(写真・Web 画像)



写真 I-006
こまがたせき
駒形堰のイヌザクラ
(写真・Web 画像)



写真 I-007
にしがたけ
西ヶ嶽のイヌザクラ
近年発見されたイヌザクラで、西ヶ嶽の標高 550m の沢筋にあり、2.5m で多数に分岐している。
(写真・Web 画像)



写真 I-008
くつわ
轡の森のイヌザクラ
木之本町の住宅街の細い路地を入った所に、狭い児童公園があり、その一角に立っている。根元近くで分岐するが、枝張りは 12m あり、樹勢はよい。

14-H ウメ(梅)の巨木

バラ科サクラ属 Prunus mume

※中国中部原産の樹木で、日本には古くに渡来し、万葉の頃には人々に愛され、普及していた。果実は食用として利用され、園芸種も多く作り出されている。しかし、温暖化の影響か、西日本にあった多くの巨木は近年枯死し、主として中部以北に巨木が報告されている。巨木となるものは珍しく、貴重な存在である。そのため、現行評価より一ランク上位に評価するべきである。巨木位置図は「イヌザクラの巨木位置図」に記載した。

■ウメの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 3.5m 以上の単幹樹、同等評価の分岐幹樹、樹形、花付き良好なウメの巨木。
- B 幹周おおむね 2.5～3.5m の単幹樹、同等評価の分岐幹樹、樹形、花付き良好なウメの巨木。
- C B 評価以下のウメの巨木。

■主なウメの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	真法院の苔梅 写真 U-001	M3.7m(1.0m 2012)	8m	新潟県佐渡市梅津 925 真法院	市
B	大屋の梅 写真 U-002	M4.5m(分岐 0.3m 2014)	4m	秋田県横手市柳田字持田	市
B	石那田のウメ 写真 U-003	M3.4m(0.5m)	8m	栃木県宇都宮市石那田町	市
B	時習館の梅 写真 U-004	4.2m(4 分岐合計)	6.5m	滋賀県犬上郡多賀町栗栖	なし
B	夏間木の太梅 写真 U-005	3.6m(2 分岐合計)	11m	岩手県二戸市福岡夏間木	なし
B	大沢の臥竜梅 写真 U-006	3.5m(最大株根元周)	4.5m	岩手県下閉伊郡山田町大沢	県
B	瑞巖寺の臥龍梅 写真 U-007	2.3m(根元周)	8m	宮城県宮城郡松島町松島字町内	県
B	古子の紅梅 写真 U-008	3.0m	9.6m	岐阜県下呂市小坂町長瀬	県
A	藤川天神の臥竜梅 写真 U-009	1.0m	8m	鹿児島県薩摩川内市東郷町藤川	国
B	徳乗寺の梅 写真 U-010	株周 M2.6m(0.3m 2008)	5m	滋賀県高島市新旭町新庄	なし
C	石抱きの梅 写真 U-011	M2.0m(0.5m 2012)	7m	新潟県佐渡市真野	
C	聖蓮寺の八房ウメ 写真 U-012	1.68m(分岐幹合計)	8m	岐阜県不破郡関ヶ原町今須平井	
C	本東寺の枝垂れ梅 写真 U-013	1.5m	3m	宮崎県延岡市松山町 1133	



写真 U-001 日本一のウメ

真法院の苔梅

「羽吉の大クワ」近くにある無住の真法院前の境内に立つウメの巨木である。ウメとしては珍しい単幹樹で、地上 2m で主幹と側幹 3 本に分岐する。枝張りが見事で、東西 14m に及ぶ。幹全体が苔に覆われていることから「苔梅」と呼ばれるようになった。(下写真・全景)





写真 U-002 ^{おおや}大屋の梅

個人宅の裏庭に立つ。根元は地上1m程囲われて、根上状になり、主幹は横たわって、大小5本の幹が立上がる。その内大きい2本は枯れ、細い幹が生き残っている。樹勢が旺盛な頃は、文句なく日本一のウメであったことが伺える。



写真 U-003 ^{いしなた}石那田のウメ

(写真・石田徹)



写真 U-004 ^{じしゅうかん}時習館の梅

民家の前に立ち、根元近くで4分岐する。(写真・Web画像)



写真 U-005 ^{なつまき おおうめ}夏間木の^{おお}大梅

農道の先、畑の一角に立つウメの巨木。根元近くで2分岐する樹形。樹勢は旺盛である。(写真・Web画像)



写真 U-006 ^{おおさわ がりゅうばい}大沢の^お臥竜梅

福士家の庭園内にある臥竜梅。東西18mに7株が繋がって立上がる樹形。八重咲きの紅梅である。(写真・Web画像)



写真 U-007 ^{ずいがんじ がりゅうばい}瑞巖寺の^お臥龍梅

慶長14年(1609)寺の落慶時に伊達政宗公が手植えた。紅白二本のウメの巨木がある。(写真・Web画像)

▼写真 U-008

^{ふるこ こうばい}古子の^{こう}紅梅

八重咲きの紅梅で、集落山側の土手斜面に立つ。地元では樹齢700年といわれる古木。(写真・Web画像)



▼写真 U-009 ^{ふじかわてんじん がりゅうばい}藤川天神の^お臥竜梅

梅園にある150本の梅の木の内50株が臥竜梅で、元々一本の梅から地面を這うように伸びて、株を増やしていったという。一本一本は巨木ではないが、臥竜梅として最も大きい事から、「国指定天然記念物」相応である。(写真・Web画像)





写真 U-010 ^{とくじょうじ} 徳乗寺の梅

山門をくぐったすぐ右手、鐘樓の横にある。高さは5m程だが、樹齢は400年あまりという。この梅には、近江源氏にまつわる伝説が残されている。根元近くで2分岐し、主幹は1.5mで多数に分岐。幹はコブや空洞で岩のごとく、苔むし実に見事である。



写真 U-011 ^{いしだ} 石抱きの梅

順徳天皇御手植えと伝えられる。根元に幅1m程の岩があり、石を抱くように成長している。主幹上部は枯れ、側幹が生きている。



写真 U-012 ^{しょうれんじ やつふき} 聖蓮寺の八房ウメ

本堂左手の玉垣の中に立つ。幹周0.8mの主幹と、側幹2本の株立ち。主幹は半分程朽ちてはいるが、花付きが良い。



◀写真 U-013 ^{ほんとうじ} 本東寺の枝垂れ梅

珍しい枝垂れウメの巨木である。

(写真・Web画像)

14-I バクチノキ(博打の木)の巨木

バラ科サクラ属 *Prunus zippeliana* (別名ピランジュ)



■バクチノキの巨木評価基準

A 幹周 5m 以上の単幹樹、同等評価のバクチノキの巨木。

B 幹周 2~5m の単幹樹、同等評価のバクチノキの巨木。

C B 評価以下のバクチノキの巨木。

■主なバクチノキの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	早川のピランジュ 写真 B-001	M5.2m(1.3m 2008)	20m	神奈川県小田原市早川字飛乱地	国
B	瑞林寺のバクチノキ 写真 B-002	5.5m(分岐幹合計)	20m	愛媛県宇和島市津島町北灘	なし
B	白馬山のバクチノキ(下) 写真 B-003	3.7m	14m	福岡県山田市白馬山中腹	県
B	白馬山のバクチノキ(上) 写真 B-004	2.5m	12m	〃	県
B	行隣神社のバクチノキ 写真 B-005	3.3m	35m	宮崎県延岡市行隣町	なし
B	豊浦神社のバクチノキ 写真 B-006	M3.2m(1.3m 2010)	23m	三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区三浦	県
B	二名神社のバクチノキ 写真 B-007	3.0m	13m	愛媛県西宇和郡伊方町二名津	なし
B	恩山寺のピランジュ 写真 B-008	M2.4m(0.3m 2015) +2.2m+0.8m	18m	徳島県小松島市田野町恩山寺谷	県
B	三見吉広のバクチノキ 写真 B-009	2.3m	16m	山口県萩市三見吉広	県
C	依岳神社のバクチの木 写真 B-010	1.3m	14m	福岡県宗像市田野	市
C	荒神様のバクチノキ 写真 B-011	株周 5.5m 主幹 1.38m	11m	山口県大島郡周防大島町内入	町



写真 B-001

日本一のバクチノキ

早川のピランジュ

1.5m で側幹が立上がる樹形であるが、測定部は単幹樹で、その存在感は別格のものがある。分布域の北限に当たると言う事でも、貴重な自然遺産である。

随分判りにくい場所にある巨木で、ターンパイクの下を抜けて急な斜面を登るが、早川 3 丁目の町道から登る入口がはっきりしない。国指定天然記念物の所在が明確に示されない珍しい例である。

雨後に訪れると、幹は血の色に染まっていた。こんな樹肌をした樹木を初めて見ると、少しぎょっとする。特に早川のピランジュは色に凄みがあるようだ。





写真 B-002
瑞林寺のバクチノキ

2本の株立ちで、左が幹周3.7m、右が幹周1.8m。寺の墓地の一角に立つ。地元では、樹皮が剥がれている事からサルスベリと称している。(写真・石田徹)



写真 B-003
白馬山のバクチノキ(下)

白馬山登山道沿いに立つバクチノキの見事な単幹樹で、上下二本の巨木が立つ。(写真・Web画像)



写真 B-004
白馬山のバクチノキ(上)

(写真・Web画像)



写真 B-005
行藤神社のバクチノキ

(写真・Web画像)



写真 B-006
豊浦神社のバクチノキ

境内にはカゴノキ、シロダモ、オガタマノキ、バリバリノキ等珍しい樹木が多い。バクチノキは本殿横にあって御神木。コブがまるで猿の腰掛のような形をしていて、異彩を放っている。



写真 B-007
二名神社のバクチノキ

(写真・Web画像)



▼写真 B-009
三見吉広のバクチノキ

(写真・Web画像)



▼写真 B-010
依岳神社のバクチの木

(写真・Web画像)



▼写真 B-011
荒神様のバクチノキ

(写真・Web画像)



▲写真 B-008
恩山寺のピランジュ

寺へ登る道路沿いに3本のバクチノキが並立し、根元が繋がっている。

14-J アンズ(杏)の巨木

バラ科サクラ属 Prunus armeniaca

※中国北部原産で、中国から古代に渡来し、果樹として広く栽培されている。巨木の報告例は少ない。樹齢も短い事や、全てが果樹園に存在する事等から、今後巨木として報告される期待はあまりないようだ。

巨木DB 記載、岩手県遠野市・幹周 3.5mのアンズは枯死。位置図は「ヤマナシの巨木位置図」に記載。

■主なアンズの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	駒木のアンズ 写真 A-001	M3.22m(分岐0.3m 2012)	18m	青森県三戸郡三戸町梅内駒木	なし
B	アンズの里の古木 写真 A-002	M2.65m(1.3m 2013)	12m	長野県更埴市	なし



写真 A-001

日本一のアンズ

駒木のアンズ

りんご園の中にあり、現在の園主が果樹園を始める以前は杉林であったという。杉を伐採してこのアンズが発見された。それゆえ、このアンズの樹齢等は全く不明である。

地上1.1mで大小2分岐し、主幹は3mで4分岐、幹にコブが多く、内部は空洞化している。正面の主幹は苔むし、古木の風格が漂い、背後に回ると樹形が一変、荒々しいコブだらけの姿に変身する。同じ木とは思えない(下写真)。分岐幹にも巨大なコブが幾つも形成され、実に異様な樹形をしている。



◀写真 A-002

アンズの里の古木

アンズの里の広大な果樹園の一角、農道際に立っている。地上2mで2分岐する樹形。